

令和7年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

第5学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の、思考に関わる語句の量に差がある。語感や言葉の使い方の感覚が身に付いていない。 ○互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合うことに課題がある。相手の発言を受けて話をつなぐことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから、集めた材料を分類したり関係付けたりできるようにする。 ○「話すこと」「聞くこと」によって対話が形成されることを意識する。話がつながることのよさや楽しさが実感できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を整理する思考ツールを取り入れ、書かれている内容を理解できるようにする。対話を重ねながら情報をさらに整理し、必要な語彙力を形成できるようにしていく。 ○ペア学習やグループ学習の中で、目的意識をもたせる。話し合い活動に必要な観をもたせることで、相手の話を受け止めることができるように促す。課題に対して様々な観点があることを示し、話し合いをすることで自分の視点が広がることを理解できるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を読み取り、事実認識することが得意な児童と苦手な児童の差がある。 ○社会的事象から考えたことや思ったことを表現することに課題がある。また、それらを友達に伝えたり、話し合ったりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を読み取る際にノートにキーワードを抽出し、図解化して表現したり、友達に伝え合ったりすることを通して、事実の確かな理解を図る。 ○社会的事象に対して考えたり、話し合ったりすることができるように時間を確保することや問いを設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書いたり、対話したりするアウトプットを繰り返す活動を取り入れていく。また、協働的な活動を意図的に取り入れ、学びの質を補いながら、学習を展開していく。 ○社会的な見方・考え方を働かせられるような資料（写真やグラフなど）や学習活動、発問の整理によって、児童がより思考する時間や、主体的に学習に取り組めるようにする
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○問題から課題を見出したり、自ら発展的に考え、追究したりすることが難しい。 ○算数の図、式、言葉を使い、筋道立てて説明することが苦手である。また、他者の考えのよさを見付け、自分の考えに取り入れるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入場面や終末の場面で、どのように学びに向かうとよいのかの視点を与え、継続して指導する。 ○友達と考えを交流する際は、「なぜ、そのように問題を捉えたのか」「なぜ、そのように考えたのか」を児童同士で問うようにする。その後、児童の見方・考え方のよさを見付け、授業内で取り上げたり、振り返りに書いたりして説明する力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入では、既習と未習のちがいを意識できるよう課題提示や発問を工夫する。授業の終末では、問題の数値や条件を変え、発展的に考える視点を与える。 ○習熟度の低いコースでは、手順を一緒に確認するなどして、説明をする前に自信がもてるようにする。習熟度の高いコースでは、図、式、言葉に関連させながら説明できるようにする。ペアや少数数のグループになり、考えを説明し合う。それからもう一度自分の考えを見直すことで、判断力、表現力を伸ばす。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○根拠を基に自分の考えを論じることができていない児童が多い。 ○得られた結果を分析し、総合して考えるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○仮説を書く際はこれまでの生活経験や既習の内容を根拠にすること、考察を書く際は仮説が正しい（違う）と言える理由を結果から見つけることを視点として与え、指導する。 ○複数の仮説を解決するような授業展開を行い、結果を分析することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全員が予想の根拠をもてるように事象提示を工夫する。考察の際は、どのようなことを記述するのかを示し、論理的な文章の構成をとらえられるようにする。授業の中で「どうしてこう考えたの？」「なぜ、そう言えるの？」など、発問をし、よりよい記述になるようにする。 ○実験結果は数値や現象といった、事実を簡潔に書くことを指導する。実験結果の見通しをもつことで、実験の際にどこに着目するのか定まるようにする。

<p>体 育</p>	<p>○運動の特性に即した、基本的な技能を身に付けられていない児童の割合が多い。</p> <p>○その運動ごとの思考や動きについては考えられるが、他の運動と結び付けて考えることができない。</p>	<p>○運動の特性を明確にする。技能を身に付けるための練習の場をいくつか設け、自己やチームに合った練習方法を選ばせながら、具体的に指導する。</p> <p>○自分たちが今まで取り組んできた運動やその時の動きをふり返り、系統性を分かりやすく示す。</p>	<p>○自己やチームの課題を見付け、自分たちに合った練習方法や場を選択できるようにし、課題解決に向けて取り組みやすいようにする。</p> <p>○「全員が楽しく行うために」「チームが勝つために」などを明確にして、目的に合った動きや考えを引き出しながら活動に取り組む。</p>
<p>音 楽</p>	<p>○楽器や歌をある程度のレベルまでできるようになる児童が多いが、よりうまくなろう、より表現しようとする向上心が不十分な児童も多い。</p> <p>○合わせることや友達の演奏を聴くことに意識が向かないことがある。</p>	<p>○自分のやりたい表現を出せるように、楽曲分析のヒントを与える。表現に結びつくように、技能を丁寧に指導する。</p> <p>○合わせて演奏したときの達成感を味わえるように聴き合うことの大切さを指導する。</p>	<p>○表現することの素晴らしさを実感できるように模範になる例を動画やCDなどで見せる。</p> <p>○聴き合ったときや合わせた時の児童の発見や気づきを大切にし、よりよい演奏をしたいという意欲を伸ばせるように、教師側の発言や指導を工夫する。</p>
<p>図 工</p>	<p>○意欲的に取り組む児童が多いが、粘り強く取り組むことが苦手な児童もいる。</p> <p>○片付けることが苦手な児童がいる。</p>	<p>○細部まで丁寧に取り組んでいる児童の作品を見合う時間を設ける。</p> <p>○片付けの時間を十分に確保するとともに、片付ける意味も理解させることで、片付ける意欲を高める。</p>	<p>○授業の導入、途中、振り返りの時間で、丁寧に取り組む大切さを強調して指導する。</p> <p>○図工室を使っているのは自分だけではない点や次に使う人に対する思いやりについても意識をもたせることで、片付けへの意識を高める。</p>
<p>家 庭</p>	<p>○初めての家庭科の授業に興味をもち、真面目に取り組む児童が多い。</p> <p>○調理実習では、班員で協力して楽しく行い、調理の後の掃除についてもしっかりと行うことができている。習ったことを実践する児童がいる。</p> <p>○裁縫では、手縫いを初めて経験する児童が多くいたが、前向きに努力し、上達した児童も多い。</p>	<p>○今後も授業で習ったことを実際の生活で実践していけるように、引き続き指導していく。</p> <p>○クラブ活動等で裁縫の経験を重ねたり、習得が早かったりする児童が各学級にいたので、児童同士で教え合ったり、助け合ったりできる体制を作り、指導の充実を図る。</p>	<p>○2学期以降も家庭科のねらいを意識しながら授業を進め、担任と協力しながら家庭で取り組める課題を出したり、実践できそうな具体的な場面を伝えたりし、家庭生活に活かせるようにしていく。</p> <p>○家庭科に関連のあるニュースを紹介し、より家庭科に対して興味をもてるようにする。</p>
<p>外 国 語</p>	<p>○英語学習において、「聞く」「話す」活動に対して消極的（苦手意識）をもっている児童が見られる。</p> <p>○アルファベットが4線上に正しく書けない児童が見られる。</p>	<p>○児童が英語をより聞いたり、話したりすること（慣れる）ができる環境が望ましい。</p> <p>○なぞり書き、写し書きができるように支援する。</p>	<p>○All English で進められるよう、外国語科の学習の流れを定着させる。また、ALTとの連携をより密にし、児童とALTが直接やり取りなどができるようにして英語を「聞く」、「話す」ことに慣れさせていく。</p> <p>○慣れ親しんだ単語や言葉を聞き取り、文字と音の関係を意識して書く場を多く設定していく。</p>

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点